

コガタズメバチ

藪漕ぎしている私に近寄り警告的にまわりを飛ぶ1匹のズメバチに出会いました。眼前50センチほどにも近づかれると大きく見えてオオズメバチか?と間違えるほどでした。このズメバチを目で追っていますとすぐ近くに止まりました。よく見ると右の写真のように巣づくりを始めたばかりのようで、傘状の着工したての巣に止まって盛んに巣づくりをしていました。やがてとつくりを逆さまにした形に造型されるでしょう。最終の形はいびつなバレーボールほどの丸型になります。「ズメバチがいるぞ、注意しろ」と仲間呼びかけて、しばし観察させていただきました。場所は野幌担当森林の10列目、道路縁から20メートルばかり侵入した地点でした。映像には2014年7月1日10時59分と記録されました。巣はコクワの蔓がからみあったところでした。ツル切りもこの日の仕事でしたので、そのコクワの元を切断しておきました。やがて葉が枯れて巣がむき出しになりますから、放棄されることを期待する次第であります。



オオズメバチならば地下に巣をつくります。このズメバチは樹冠に巣をつくっていますのでコガタズメバチでしかも女王となる雌蜂なのです。巣づくりはじめの女王蜂は滅多なことでは刺さないと、ものの本で読んだ記憶がありますから、安心して観察できました。秋にこの森に入る場合はくれぐれもズメバチにご注意下さい。

野幌のこの森は2004年の9月に襲来した台風で被災した森林で50年生の伐期に来たトマツ人工林が将棋倒しになり、1.8ヘクタールの空き地となりました。幹材は回収されましたが、枝や伐根が残されていました。それを人力のみで枝を除去し、伐根をチルホールで移動させたりして地拵えをし、2006年から植苗を始めましたので、まだ9年しか経過していませんが、ケヤマハンノキは幹周りが30センチ、樹高10メートルを超える成長ぶりでした。それに較べるとトマツの歩留まりも成長も劣り



ますが、それでもほぼ人の背丈を越えはじめていますので、草刈の必要はなくなっていますが、蔓切りは必要と思いました。

この日特筆しておく出来事がありました。一頭のカラスアゲハがヨモギらしき草の葉に産卵しているのを目撃したのです。市山さんも証人となっていただけだと思います。カラスアゲハの食草を帰宅して調べますとキハダ、カラスザンショウ、ハマセンダンですが、いずれも樹木の葉です。草本に産卵する記録を探してもみつきりません。念のため7月2日に再訪しましてサンプル採集と現場の撮影をしてきました。サンプルはあきらかにヨモギなのです。日陰で徒長した状態なので葉が大きく柔らかいのですが、香りはヨモギそのものでした。